

はくがんさん

謹賀新年

本年も宜しくお願い申し上げます

第100号 H29年正月号

伊豆市 法住寺 発行

つづける 時に愚鈍に

昨年秋の紅葉は誠にみごとでした。境内への坂道を登ってきて山門脇のカーブを曲がるともうそこは別世界。赤のモミジ、黄色のナラ、ケヤキ、落葉掃きで苦勞するエノキもきれいです。大したものだと見入ってしまうのでした。

✚

「寿量の祈り 感謝と敬意」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます。

野の花の寺、モミジとシヤクナゲの寺を

思い描いて雑木を整頓し、毎年植樹し続けて二十年余になります。ちょうど本堂建設もあつて大きな木を動かすことができ、モミジ等を植樹し続けることができました。これも檀家の皆さんが境内整備作業を続けてきて下さったおかげです。これからもゆったりと続けていき、何十年後には更に見事な景観となることを、皆さんと共に夢見ていきたいと思えます。もつともそんな先々のことを言っても…、という方もいるでしょうが大丈夫。あの世ならもつと美しく見えるのではないのでしょうか。何はともあれ、毎年の目の前の景色を愛でてまいりましょう。

✚

お寺のお便り「はくがんさん」が今回で百号になりました。第一号は平成四年七月、当時副住職だった私が発行し始めています。「お寺でどんな事をしているか」。地元でも知らない方がいらして、遠方では更にわからないであろう、お寺でどんな事をしてい

るかお知らせしたいと始めたのでした。当時も護持会役員さんが境内や周辺の整備を熱心によく行って下さり、墓地の清掃も地元の皆さんがよくやって下さっていました。また様々な行事、団参などもあり、そうした様子を知って欲しい、案内したいと始めたのでした。おかげさまで二十五年間、続けることが出来て良かったと思うことは、「自分の言葉で語る」ことができるようになってきたことです。法華経、日蓮大聖人の教えや書物の抜き書きを丸写しした事もありました。でも何かしっくりしません。自分なりに咀嚼(そしゃく)した中で語る、未消化だったり、的が外れたりしているかもしれない。それでも今、私が思っていることを語ってきました。また昌子寺庭の「お寺の庭に花いっぱい」は平成九年十月二十三号から、「洋明さんのおはなし」は平成十五年七月四十六号から始まっています。つたないながらも書き続けてきたことは意義あることと思えます。何より読んで下さった皆さんに感謝するものです。

謹賀新年



法住寺護持会

〔総代、護持会長〕 伊東 修

〔総代、副会長〕 小塚健治

〔総代〕 森野道雄

〔顧問〕 山下 一

〔世話人〕 伊東 徹、三田信子、伊東幸二、

室野千肥路、小塚秀夫、山下壮一、

小塚健治、佐藤 諭、飯田幸雄

〔監査〕 土屋正次、佐藤 薫

中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕 伊東ちゑ子

〔顧問〕 小塚 勝、山下 一

〔世話人〕 山下 要、井本まつ、三田五月、

伊東はつ江、伊東すゑ子、伊東貞子、

三田幸子、山崎まち、伊東通子、

伊東ミナヨ、滑川正勝、滑川美奈江、

森野一夫、小塚正司、山下 清、

小塚貞夫、小塚康清、山本宏衛、

小塚愛子、森野はま江、山下英子、

山下千代子、佐藤雄一、佐藤賢吾、

佐藤秀夫、杉山しまゑ、山本義富

伊豆連合大題目講(当山)

〔会長、理事〕 山下 要

朝の勤行は長く続けてこそ体に沁み込むものを感じます。直ぐに結果を求めたり効率を優先したりすることはあるにしても、ゆっくり、時に愚鈍に続けることもあって良いように思うのです。

その一言に救われる

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

十一月初め、孫の大洋がサッカーの試合中に、足首の骨を折る大ケガをして入院した。その後、手術をすることのことで、私も病院に駆けつけた。「只今 手術中」とのことだったので、洋明さんや幸代さんと話しながら待っていた。「タツくん 今朝どんな様子だった？」とたずねると、朝から「腹減ったア」等と言っていたとか(ふっ、やっぱり子供だなア)。でも手術前には「おだやかな気持ちだ」と言って手術室に向かって行ったとのこと。小さなお守りを首から下げたのは入院した時から気付いてはいたけれ

ど…。それにしてもまだ十四歳の少年が「おだやかな気持ちだ」と言って手術室に向かうというところに、私は深い感動を覚えた。というよりその事を聞いて心から救われたと思えた。



病院からの帰り道「おだやかな気持ち」という言葉が、私の中の深い処で反復されていた。そうか、私が忘れていたもの、求めていたものはこれだったのだと。普通の日々こそ丁寧に大切に暮らしたいと思いながらも、日常のわずかな事に心が揺れ、イライラしてしまう。そういう自分に向かい合うのがつらくて気持ちが沈み込んでゆく時もある私。そんな私に必要なのは、まさに「おだやかな気持ち」だったのだ。全身麻酔をする程の手術を前にした子供の一言に、心から「ありがとう」と感謝しながら新しい一年を(いろいろあったとしても)「おだやかな気持ち」を大切にして過ごせたらと思います。本年も宜しくお願い致します。

お知らせ

中伊豆立正会大題目

一月二十一日(土) 午前十時

会場 法住寺

今年の中伊豆立正会初題目が当山で行われます。明治の時代から百五十年余続くお講で、檀家の皆さん全員が会員です。ぜひご参加下さい。

星祭

一月二十九日(日) 午後二時

一時三十分水行



昨年の星祭の様子

旧暦は大自然の営みをよく表していると感じます。節分、立春。新しい年が善き年でありますよう、厄を払い運気を引き寄せましょう。「詳しくは別紙ご案内をご覧ください」

トピックス

ホームページアクセス十万回

インターネットに公開している法住寺のホームページへのアクセスが十万回を超えました。平成二二年六月、伊豆法難七五〇年の折に寿量の塔を建立しホームページも始めました。四季折々の景観、野の花の写真に添えてお寺の日々を発信しています。

スマホ対応してありますので、通勤、休憩の折などで、お寺の自然や行事などの写真を観てください。

グーグル、ヤフーなどで「法住寺」と検索、1ページ目に出てきます。

[\[http://jiryu.jp\]](http://jiryu.jp)

境内整備作業

年末の整備作業は元村四班の皆さんのご奉仕でした。第二墓地西斜面、ヒノキの間の雑木処理。長年手入れしてなく急斜面での作業、本当に大変でした。元村四班の皆さん、ありがとうございました。

なお今年の境内作業は、三月元村一班、七月西、九月清水①、十二月元村二、三班の予定です。宜しくお願いいたします。

七面山登詣

十一月十九、二十日

檀信徒の皆さんと登詣。見事なご来光は感激でした。

役員作業

十一月二十三日(水・祝)

護持会役員さんが第一墓地北斜面上部の草刈り、雑木処理をご奉仕下さいました。

護法大会

十一月二十九日(日)

宗務所主催の護法大会が伊豆の国市アクシスカつらぎで開催され、護持会役員さんを中心に二一名の参加を頂きました。東北、熊本震災の慰霊法要、石巻産グッズの販売もあり被災地支援しました。

アサギマダラ

十月の御会式の当日、

万灯行列がお寺に向かっている時、本堂前のサラシナシヨウマに美しい蝶々がとまり、心地よさそうに万灯の太鼓を楽しんでいるようでした。「写真HPブログ10月27日」



本年が笑顔の多い年であります事を祈念申し上げます。

この世の中には沢山の仏様、神様、ご先祖様がいらっしゃると思います。最近それ以上にいらっしゃる「○○様」。それは「オレ様」です。この「オレ様」、ちよつと厄介なところがありません。それは「有難い」では無く「当たり前」と思ってしまうこと。

✚

昨年秋、七面山に夕方から登詣させて頂くことがありました。ヘッドライトを点けての真っ暗闇の参道を登詣。山の闇は本当に真っ暗。一寸先は闇とは言いますが、ヘッドライトを点けませんと本当に一寸先が

見えないのです。その闇に、自然の恐怖、自然の中での自分の小ささを感じました。

そんな中をお題目を唱えながら登詣。ヘッドライトがまさにお題目「長夜を照らす大燈明」。自分の一步一步進むべき道を照らしてくれるのです。

山頂まで五十丁の七面山。三十丁目を過ぎたあたりから足が重く何かに足を掴まれているような感覚。何度も止まり、時に弱き自分と「オレ様」が心の中で顔を出してくる中での一步一步。

そこで改めて感じたこと。お題目というヘッドライトに、自分の進む道を照らして頂きながらも、お題目を唱えるだけでは登れない。その道を進み歩くのは自分の力での一歩。仏天が直接、手取り足取り動かしてくれているのではなく、自分の力で歩き進んでゆくということです。普段、手を合わせお題目を唱えながら自分の力で進む、その一歩が大切なのだと感じたのです。

✚

暗闇の恐怖、弱き自分を感じながら一人

きりで登っていたつもり「オレ様」が、三八丁目を超えたところで足を止めヘッドライトを消した瞬間のことでした。正面には雄大な富士山のシルエットと夜空に満天の星。何とも言えず目頭が熱くなり、唯々「有難い、嬉しい」という感情がこみ上げてきました。まさに仏天、ご先祖様が姿形を変えて目の前に現れてくれたのだと感じました。その瞬間「オレ様」はいなくなり、決して一人ではないこと、こんなにも側で見守って頂いてこと、自分たちは「オレ様」で生きているのではなく、自然の中で「おかげ様」の中で生かされていることを教えてもらったのです。七面大明神は、登りながら感じることに応じて下さる「感応」。この体験で正直にとっても嬉しい豊かな気持ちになりました。こんな体験を皆さんと一緒に出来たら最高です。

今年は皆様にとって「オレ様」より「仏様、神様、ご先祖様」そして「おかげ様」を沢山感じることの出来る一年でありますよう一緒に精進して参りましょう。

御志納金「十一月〜十二月」

元村	三田	泰男殿	尊母葬儀砌
厚木市	結城	浩史殿	尊母葬儀砌
	結城とも子殿		
渋谷区	風間	幸殿	永代供養砌
御殿場	佐藤トシ子殿		夫君納骨砌